

2025 年度 目白大学 学位授与式

答 辞

春の光が心地よい暖かさを運び、色鮮やかな季節が巡ってまいりました。新たな世界へと羽ばたく、私たちの門出を、桜の花も優しく見守ってくれているようです。

本日は、私たち卒業生・修了生のために、このような盛大な式典を挙行していただきましたこと、一同を代表して、心より御礼申し上げます。

ただいま、太原学長からの式辞、尾崎理事長ならびに、ご来賓の方からのご祝辞、そして在学生代表の方からの、心のこもったお祝いの言葉をいただき、身の引き締まる思いと共に、感謝の気持ちでいっぱいです。

2022年の4月、私は、慣れないスーツに袖を通して、入学式を迎えました。高校生活とは異なり、行動の選択肢が増える一方、自己の責任も大きくなる大学生生活に、期待と不安で胸がいっぱいでした。

今、4年間の大学生生活を振り返ると、自分自身に向き合う時間が多かったと感じています。

自由な時間が多かったので、いろいろなところに出向いたり、家族と語り合い、新しい友人と出会う中で、さまざまな視点から、ものごとを見られるようになり、多くの知見を得ることができました。そうした経験は、自分自身の自主性や自信につながり、自分をとても強くしてくれました。

学業においては、出会えてよかったと思える先生のゼミに、入ることができ、「ビジネスプランコンテスト」に参加し、自分を成長させることができました。

「ビジネスプランコンテスト」とは、中小企業の製品やサービスのビジネスプランを、参加している各大学の学生グループが提案するというものです。製品やサービスが、実際に使用されている状況を想定し、実用化のための具体的な計画を立案します。教科書の演習問題のような正解はなく、顧客にも企業にも有益なビジネスプランを考えるということが、未熟な私たちにとって高く大きな壁でした。

企業に対して、どうすれば納得していただけるのか、どうアプローチすれば、顧客がその商品を選ぶのか、仲間と長い時間をかけて話し合い、自分たちにしか出せない価値を、模索し続けました。

試行錯誤の末、納得のいくプレゼンテーションを終えられた達成感は、今でも忘れられません。

時に厳しく、時に優しく、多くの知識を教えてください先生のもとで学び、気の置けない仲間たちと過ごせた日々は、一生の宝物だと感じています。

今日、私たちは目白大学を卒業し、それぞれが導き出した未来への道を、歩み始めます。

これから飛び込む、あたらしい世界では、たくさんの素晴らしい経験や、成長をする一方、挫折や困難を味わうこともあるでしょう。しかし、その時は、大学4年間で培った経験や知識、そして、自分自身と向き合い続けたという自信が、背中を押してくれると信じています。

結びになりますが、卒業生を代表して、私たちに温かく見守り、導いてくださった先生方や職員の皆様、私たちを支えてくださった全ての方々、いつも助けてくれた友人やゼミの仲間に関心より感謝申し上げます。また、いついかなる時も、私たちを支え勇気づけてくれた家族に関心より感謝いたします。

そして、後輩の皆さんのさらなるご活躍と、目白大学のますますのご発展を願い、答辞とさせていただきます。

2026年3月26日
目白大学 卒業生・修了生 代表
経営学部経営学科 筒井 英恵